

令和 2 年 4 月 20 日

福岡県立大学理事長・学長  
柴田 洋三郎 様

福岡県立大学同窓会  
会長 野口 久美子

保健師教育充実に向けて（ 要望 ）

福岡県立大学同窓会の充実と発展につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

平成 21 年 7 月 9 日に「保健師助産師看護師法」及び「看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法案」が可決成立し、4 年制大学での教育を看護師教育の基本とする方向性と、保健師教育は修業年を「6 月」から「1 年」以上に延長することが示されました。この改正から 10 年が過ぎ、看護師教育は 97 単位から 102 単位へ、保健師教育は 28 単位から 31 単位へと教育内容を拡充する保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正が予定されています。

近年、少子高齢化が一層進む中で、人口及び疾病構造の変化に応じた適切な医療提供体制の整備が必要となっており、地域包括ケアシステム構築の推進が急務となっています。地域包括ケアシステムにおける看護職の役割は重要性を増し、活動の場も多様化し拡大していることから、多様な場で、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供する能力、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力の強化が求められています。

また、公的な社会保障制度の改革に加え、地域住民の組織的な活動の活性化し、社会資源の有効活用を積極的に推し進めるソーシャルキャピタルの醸成も施策として推進されています。保健師には、地域の様々な社会資源のネットワークを構築し地域包括ケアシステムを動かすマネジメント力や活動を展開する能力、地域の健康課題を的確に捉え新たな政策提言ができる能力が求められています。

さらに児童虐待をはじめとする健康危機管理、生活習慣病対策、地域と職域の連携など地域において取り組むべき困難な課題は山積しており、保健師に期待される役割は大きくなっています。

福岡県立大学看護学部では、平成 24 年度入学生から保健師教育を学部の選択制とし、助産師教育を大学院化することで教育を充実させてこられました。しかし、現在、学部 4 年間で看護師を養成し、大学院修士課程において保健師教育を行う大学が増えてきています。

看護職員が対応する対象の多様性や複雑性が増しており、看護職員にはこれまで以上に高い能力が求められている今、さらなる教育の拡充が望まれます。同窓会といたしましても、将来の保健医療福祉を担う質の高い人材養成に期待し、保健師の基礎教育は、看護基礎教育 4 年に加えて 2 年とし、大学院修士課程において保健師を養成する教育体制を希望いたします。